

事業	担当課	評 価		意 見
1. 宝の土地活用推進事業	企画情報課	◎	1	・過去4年間、実績がないため、内容を大幅に見直す必要がある。 ・震災の影響を踏まえて検討する。 ・内容を見直し、他の町有地を利用する。 ・地震でやむなし。 ・現状として事業内容を再検討することになったのであれば取組は一旦終了(中止)でいいと考えます。 ・令和2年から始まり、令和6年度の現在まで具体的な施工はされておらず、今後施工を始めて宅地分譲を行うには、まず周辺の道路が能登半島地震の影響で修復が必要であり、その他の町有地でも周辺整備を先に行い魅力のある場所にしなければ買い手も見つかりませんので一度中止をし周辺改善が先だと思います。
		○	5	
		△	7	
		×	2	
2. サテライトオフィス推進事業	商工観光課	◎	1	・地震の影響を踏まえてということが前提で、外部からの転入者を増やす取組として、継続して欲しい。また、3の起業・創業バックアップ事業のオフィスとしても検討してはどうか。 ・お試しサテライトオフィスを1年間活用したアースリンクに撤退した理由を聞いたのか？その理由を知りたい。 ・地震でやむなしだが、なぜサテライトオフィスの利用がないのか、理由を見つけて解決すべき。 ・今の取組みでは企業のニーズに対応できていない為、誘致できなかったため、取組内容の見直しが必要だと考えます。 ・その他の市や町にもサテライトオフィスがありますが、宝達志水町である事のメリットや魅力を感じてもらい、それが伝わらないといけませんので、場所を整備する事は勿論、事業者と雇用者が宝達志水町でなければいけない、宝達志水町で良かったと思っていただけるようにし、伝えるために外に発信していかないと問い合わせも来ないと思いました。
		○	5	
		△	7	
		×	2	

事業	担当課	評 価		意 見
3. 起業・創業 バックアップ 事業	商工観光課	◎	8	・起業・創業後においてもフォローアップし、支援をし続けていくための制度を充実させていく。 ・1～3については、会社を呼び込む点で一体で考える方法もあると感じます。 ・事業の継続状況はどうか。サポート体制は。 ・ITやDXに関連する起業・創業などもっと幅広くバックアップしてはどうか。 ・起業家への支援の充実を行って、事業の深化を図るべき。 ・費用対効果が小さいように見受けられます。費用を絞ってください。 ・起業・創業等支援事業補助金では、「商工業であること」と強く明記されているのが、拡充の為に新たな要件が組み込まれても、それが足枷となる場合があるので、例えば、農業者がキッチンカーや新たな第二創業を行った場合にスムーズにバックアップ出来るような拡充が必要。 ・起業から5年以内の創業者と起業希望者の交流会。
		○	6	
		△	1	
		×	0	
4. 官民共創 まちづくり戦 略事業	商工観光課	◎	3	・本年度事業は中止としても、この方向性の事業は、まちづくりを考える場として継続して欲しい。 ・官民共創まちづくり戦略事業の施策に、県が2032年度末までの9年計画で進める創造的復興リーディングプロジェクトを組み込んでどうか。 ・地震でやむなしだが、さらに内容の充実を図るべき。 ・震災からの復旧・復興は最優先課題ですが、宝達志水町の未来を創るには重要な事業ですので事業自体を新しく考え見直しして継続していかないと宝達志水町の未来は創れないと思います。
		○	9	
		△	2	
		×	1	

事業	担当課	評 価		意 見
5. スポーツイベント振興事業	生涯学習課	◎	3	・イベントでの町外者の来町だけではなく、例えば、宝達志水町には〇〇があるから行くというような感じで日常的に来町できるような形にすることを検討。金沢から40分程度の地の利を活かす。 ・スポーツイベントは強みとしてもっといろいろ考えられるのではと感じます。近年は「健康」も交流人口の増加のキーワードになります。 ・宝達山ヒルクライムについて、「運営に必要な人員を確保できず中止」(令和4年度も)とあるが、運営体制はどのようになっているのか、今後も同様の理由により開催できない場合は何らかの見直しが必要ではないか。 ・宝達山ヒルクライムを今後どうするか。 ・宝達マラソン以外スポーツイベント事業が見当たらない現状を考えると、さらに一段と他のスポーツも検討すべき。 ・スポーツイベント振興による経済効果を考えると宝達志水町には宿泊施設が少なく廃校となった小学校の施設を合宿やイベントで来てくれた方々向けの宿泊施設にし地元の飲食店と連携して宝達志水町に経済効果をもたらしてくれる仕組みを作った方がいいと思います。 ・宝達山ヒルクライム時のイベント運営人員不足について、その人員は「ボランティア」ですか？どこで募集したんでしょうか？
		○	9	
		△	3	
		×	0	
6. ふるさと会交流促進事業	商工観光課	◎	3	・町外者について「宝達志水町を応援する」、サポーターという気持ちになるように持って行く。 ・ふるさと会と連携事業として評価が高い。地震復興の一つとしてアピールしてほしい。 ・ふるさと会の呼び込みと交流を増やすなど、内容の発展が必要。 ・関東ふるさと会の会員になるメリットを明確にしないと新規会員の獲得は難しく、また、ふるさと納税を促す意味でも、ふるさと会員向けの宝達志水町の特産品を集めたふるさと納税情報サイトなどの発信もしていけばいいと思います。
		○	12	
		△	0	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
7. 宝のなぎさ 交 流 促 進 事 業	商工観光課	◎	3	・1と同様、過去4年間実績がないため、内容の大幅な見直しが必要。 ・千里浜は知名度がある貴重な財産なので、ぜひ有効活用して欲しい。また、宝達志水町の千里浜と言うことをもっとアピールして欲しい。 ・養浜事業を集中して行うことを望む。 ・自然が相手なので難しいところがあるが他に方法がないか検討すべき。 ・事業用地がドライブウェイの通行確保を必要としているなら、現状で開発事業に手をあげる事業者をみつけるのは非常に困難であろうと思う。事業(取組)内容の見直しが必要ではないでしょうか。 ・千里浜浸食の改善の目処がたてば千里浜なぎさドライブウェイの通行が増え、公募が増える可能性があるが、受け皿となる場所の整地や開発等を考えなければ誰も興味が持たれない土地になってしまう。
		○	4	
		△	7	
		×	1	
8. 農産物等 ブランド化推 進事業	農林水産課	◎	7	・ブランド化した農産物について、知名度をあげる取組を行うことで販売数を確保できるようにして、支援して欲しい。 ・SNS、ホームページなどを含めた発信方法の検討余地があると感じます。外部の知見も参考に検討してはどうか？ ・ブランド化をさらに進めてほしい。黒蜜姫は金沢でもブランド化している。 ・黒蜜姫、ルビーロマン以外のブランド品の構築ができるか検討すべき。 ・町とブランド化を行いたい生産者がタッグを組んで生産者の支援は勿論ブランド品のPRを行わないと認知度が低く新しく生産したい人が増えない。黒蜜姫に関しても新しくハウスを新設する意欲のある生産者は少なく、更にハウス新設の補助金は減らされて、これ以上は増えない中で、宝達志水町が商標権のルールを作り、そのルール上なら黒蜜姫としてどんどん販売出来るような仕組みも作らないと名前も売れない。
		○	6	
		△	2	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
9. 新規就農者支援事業	農林水産課	◎	3	・実績は上がりづらい分野ではあるが、今後も継続的な息の長い取り組みは続ける必要がある。 ・8との連携を強化する。新規就農後のフォローアップを強化しうる。 ・1～3と絡めるのも方法の1つではと感じます。 ・定住就農は農産物のブランド化には欠かせない。いまがチャンス。 ・新規就農者の支援をしながら継続すべき。 ・新規参入者を確保するための取組として意見交換しか実施していないのでしょうか。また今後の取組欄には「地域おこし協力隊の活動を通じ」とあるが、協力隊の活動まかせのように感じられます。 ・現状、地域おこし協力隊で入ってきても、その期間に、たまたま空く園場がなければ参入出来ない。 新規就農者を増やすには町独自の就農マニュアルなどパンフレットを作らないと宝達志水町には何があるのか、どんなサポートをしてくれるのか見えない。
		○	9	
		△	3	
		×	0	
10. 民間賃貸住宅建設補助事業	地域整備課	◎	3	・1、7と同様、過去4年間実績がないため、内容の大幅な見直しが必要。 ・10、11、12、13について、ターゲットとなる層を明確にし、連携した取組を行う。 ・賃貸か空き家対策か取組ターゲットを絞った方がいいように感じます。 ・若年者の移住促進及び震災復興からも賃貸住宅は必要であり、更なる建設の促進が必要。 ・能登における賃貸住宅のニーズは高い。親と離れず、くつかずの家族関係を保ちたいとの若者の気持ちがある。利回りで物件を推奨する制度が必要。 ・この事業を行う必要があるか検討することも必要。 ・取組内容は制度の周知と予算化のみなのでしょうか。民間賃貸住宅の建設促進に向けて、具体的に何に取り組むか再検討する必要があるのではないのでしょうか。 ・制度の周知度を増やし相談件数を増やす事が必要ですが相談から実績に繋がられるように相談後のサポートと中止した方への聞き取り調査をし、次に繋げる事をする。
		○	6	
		△	5	
		×	1	

事業	担当課	評 価	意 見
11. 宝の住まいる応援事業	企画情報課	◎ 6	・10、11、12、13について、ターゲットとなる層を明確にし、連携した取組を行う。 ・続けるべき。若者夫婦の流れをつくる。 ・今後も拡充し、継続すべき。 ・一つ一つは充実した内容ですが、実際に結婚した人が初めて見る情報として分かりやすく宝達志水町で暮らしたいと思えるようなまとまったサイトを作り、周知徹底する。 ・ひとり親世帯への支援。
		○ 9	
		△ 0	
		× 0	
12. 宅地造成事業	地域整備課	◎ 5	・過去4年間の実績が乏しく、内容の大幅な見直しが必要。 ・10、11、12、13について、ターゲットとなる層を明確にし、連携した取組を行う。 ・建設予定地が震災により造成不可となったということか。あらためて候補地を選定するとなるとかなりの期間が必要となる。現在の候補地を修復し宅地造成することはできないのか。 ・宅地造成は全国各地で見直しされている。新築という発想そのものが古いイメージになりつつある。 ・地震ではやむなし。 ・能登半島地震の影響で被災した周辺整備を先に行う必要があるが利便性がある場所で宅地分譲を行い移住希望者が手をあげやすい状況を用意してあげる事が重要。
		○ 5	
		△ 5	
		× 0	

事業	担当課	評 価		意 見
13. 空き家バンク事業	企画情報課	◎	6	・10、11、12、13について、ターゲットとなる層を明確にし、連携した取組を行う。 ・空き家バンクは地域再生のポイント。震災修理や耐震化が求められる。 ・ニーズがあるので、課題を解決しながら一段の拡充を図って進めるのがよい。 ・空き家バンクに登録だけされて終了ではなく、すぐ売買・賃貸できるように家財道具撤去や清掃の町補助金を増やし、すぐ片付けと売買・賃貸する流れを作った方が登録されただけで終了する空き家を減らせると思います。
		○	8	
		△	1	
		×	0	
14. 若者通勤サポート事業	企画情報課	◎	2	・同一申請者が毎年度だとすると人数の増減理由は？ ・14、15と連携させ、宝達志水町に住むとメリットがあることをアピールし、定住者を増やす。 ・出産・子育てから定住化を目指すのであれば、この取組は有益であると感じる。効果検証のうえ、実効性の高い施策に修正することも検討してはどうか？ ・アンケート内容や転出者に占める対象者の割合によっては、燃料費の高止まり傾向も見られる中、補助金の増額検討も必要と思われる。 ・年間2万円の効果はあるだろうか？申請件数は減っている。その分析が必要ではないか。 ・事業に陰りが見られる。理由が何かつかめて事業をどうするか検討すべき。 ・転出する若者の抑制を図る効果があるかどうかは分からないが申請している人がいるのは、少なくとも生活の手助けにはなっているので若者が金銭面で助かる新しい制度を作るなら止めてもいいかもしれないが、そうではないなら継続すべき。
		○	10	
		△	3	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
15. 奨学金返済助成事業	企画情報課	◎	1	・14、15と連携させ、宝達志水町に住むとメリットがあることをアピールし、定住者を増やす。 ・大学卒の新社会人は新天地を求めて移住するのは当然のことであり、むしろ結婚や後継ぎでのサポートが現実的。 ・利用者がいないのでは、廃止は当然。 ・実績がなかったのは事業がダメとは言えないので、ただ中止・終了とするのではなく、何故ダメだったか、どんな事業内容なら良かったのか再度検討すべき。 ・大学卒業後、この町で定住するには就労先または若者の起業を応援する制度を充実させる必要がある。
		○	3	
		△	4	
		×	7	
16. 子育て世代包括支援センター活用事業	子育て応援室	◎	5	・利用者の満足度が高いことより、この事業を宝達志水町に住むことのメリットとして、町外に向けてもアピールする。 ・「宝っ子すくすくアプリ」は本町の強みでもある。深化、発展を願う。出産、子育ての先進地として、もっと情報発信が必要では。 ・アプリ機能をより充実して、通知することで閲覧してもらい、支援を拡大していくのがよい。 ・妊娠・出産・子育てをする上で不安を解消してくれるような内容が充実しているか分からない。子育て経験者の話を聞いて、何が不安だったか何を知りたかったかヒアリングして改善が必要。こども家庭センターに相談に行かなくてもアプリ内で解決出来る内容なら利用者の満足度は上がる。
		○	9	
		△	1	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
17. 不妊治療費助成事業	子育て応援室	◎	4	・助成金額について、他の市町に比べてどうなのかを明らかにした上で、宝達志水町に住むことのメリットとして、町外に向けてもアピールする。 ・これまで一定数助成を受けており、いい取組だと思いますが、定住へのつながりはどのように評価していますか？ ・助成費は金額、回数ともに増やしてもよいのではないか。 ・さらに拡充していくべき。 ・助成対象者や助成された方の話を聞き、満足度をしっかりヒアリングする事が必要。 その上で手厚い内容にする事で出生率の増加につながり、子どもを作りたいという親が増える事が大事。
		○	10	
		△	1	
		×	0	
18. 未就学児の教育保育の質の向上	子育て応援室	◎	2	・取組内容を吟味して、宝達志水町ならではのメリットとして、町外にもアピールできるようにする。 ・いまでは、1歳児、2歳児でもスマホ動画を見ながら楽しんでいる時代。 ・より使いやすいように工夫すべき。 ・子どもの関心を引き、自発的にやりたいと思わせる内容を考え、続けていけたらと思います。また、保護者の意見を聞きながら園の職員の負担になりすぎない範囲で継続が必要。
		○	13	
		△	0	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
19. 児童遊戯施設整備事業	子育て応援室	◎	3	・屋内、屋外は同一施設、場所が望ましい。 ・中学校の部活動の地域移行も踏まえて、児童生徒の学校外での活動の拠点となるような取組を行う。文化的な活動も取り入れる。 ・都市部にないような遊戯施設(自然を残し利用した施設など)を検討する。 ・遊具が整っている「子どもの広場」(室内)は子どもたちの学びの場であり、出会いの場でもある。民間の知恵も入れ拡充を。 ・着実に利用されているので、一段と拡充して事業を進めるのがよい。 ・屋外児童遊戯施設の充実と屋内児童遊戯施設の設置が必要。屋内児童遊戯施設の運営を民間に任せた場合、町民は無料などの特典がないと町民はより充実した町外に流れる恐れがあるため、運営は議論が必要。
		○	9	
		△	3	
		×	0	
20. 宝たち成長お祝い事業	子育て応援室	◎	4	・16、17と連携して、宝達志水町に住むことのメリットとしてアピールする。 ・「宝っ子」をもっとPRすべき。くだもののブランド化と宝っ子は相性がいい。上手なPRと情報発信があるといい。 ・事業としては進めるべきだが、出生数の増加に他に何が必要か検討すべき。 ・支給対象者アンケートでは「良かった」「続けてほしい」の意見はあるものもらえるだけありがたいの気持ちが強く、成長祝い金が支給されるときは、入学が多く、新しい制服、新しい自転車等、出費が多く、それらはポイントカード会金券で購入できる範囲にあるため金券の支給も検討してほしい。
		○	10	
		△	1	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
21. 宝たち検 定チャレンジ 事業	学校教育課	◎	3	・検定について、事前指導・事後指導を充実させ、検定が目的ではなく、事前指導・事後指導を一体化した新たな教育活動となるような方向に持っていく。 ・時代にあった知己習得の補助だと特色が出て面白いかも。(英会話、プログラミング) ・漢検や英検は児童・生徒たちにとって挑戦であり、学習意欲を高めるチャンスといえる。 ・継続して行うべき。 ・子どもの学力を上げるためにはあってもいいが、はたして必要な制度なのかは分からない。勉強出来る環境作りと場所の方が大事なのではないかと思う。
		○	11	
		△	1	
		×	0	
22. 宝たちビ ジネスアカデ ミー事業	生涯学習課	◎	4	・キャリア教育の一環として、継続していく。地元の企業を知ることは大切である。 ・町の小学生に夢や目標を与えられるような有名な方を呼ぶのもいいと思います。 ・地域の課題や新ビジネスに取り組む「アントレプレナーシップ」は高校生たちがよく取り組んでいる。この事業はその先駆けでもある。 ・さらに充実すべき。町内だけでなく、県内あるいは国内、そして海外に目を向けた事業のあり方を教えることも必要。 ・普段の授業だけではなく、このような地元業者との交流や勉強する機会は、将来に必ず役に立つものになります。地元を知る・仕事を知る上で必要な事ですので、いろいろな学ぶ機会があった方がいいと思います。
		○	10	
		△	0	
		×	1	

事業	担当課	評 価		意 見
23. 宝の縁結び事業	子育て応援室	◎	2	・登録料を全額助成にできないか。(結婚後、定住する・しないは問わず) ・16、17、20の前段階の取組として、これらの事業とも連携を図る。 ・結婚アドバイザー(仲人さん)は必要。「あいきゅん」と両立で仲人さんたちの活動の場を広げる。 ・町内にこだわらず、県内、県外に広げてマッチングを拡充すべき。 ・達成度が10%しかなく、相談登録者の9割が男性など現行の取組内容では目的達成を期待できないと思われる。取組内容を見直す必要があるのではないだろうか。 ・婚活業者との連携もしながら内容の充実、規模の拡大を考えなければ成婚に繋がらないかもしれない。また、なかなか結婚を考えない人もいるので、昔ながらの「お見合い方式」も取り入れて幅広い年齢のマッチングを目指していかないといけない。
		○	7	
		△	6	
		×	0	
24. 一般介護予防事業	健康福祉課	◎	1	・高齢者対象の事業として、必要不可欠な事業として、24、25、26、27と連携して取り組む。他の市町と比較し、より手厚い場合はそれを町外にもアピールすることも考える。 ・「地域サロン」への参加の意義をもう少し分かりやすく説明する必要があるのではないだろうか。 ・継続して実施すべきだが、何か工夫が必要。 ・地域の高齢化が進む中、健康で長生きしてもらう為には、少しでも多くのサポートをし、認知症や筋力低下を防ぐような内容の充実を図り継続していかなければならない。
		○	12	
		△	2	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
25. 認知症総合支援事業	健康福祉課	◎	6	・高齢者対象の事業として、必要不可欠な事業として、24、25、26、27と連携して取り組む。他の市町と比較し、より手厚い場合はそれを町外にもアピールすることも考える。 ・認知症サポーターの確保、そして若い労働力の確保が、今後の地域を支えるキーポイントと言える。この両立をどう描いているのか。 ・継続すべきだが、それがどこまで支援に繋がっているのか、もう一度検討すべき。 ・認知症というのを家族や周りが理解をし行動出来るように支援体制を整備し認知症に理解のある社会にして行かなければならない。 また、本人も認知症にならないように町としてもサポート体制を考えて行かなければならない。
		○	9	
		△	0	
		×	0	
26. 在宅医療・介護連携推進事業	健康福祉課	◎	3	・高齢者対象の事業として、必要不可欠な事業として、24、25、26、27と連携して取り組む。他の市町と比較し、より手厚い場合はそれを町外にもアピールすることも考える。 ・エンディングノートを書くラストチャンスでもあり、相続の問題としても家族をどう巻き込むかが課題。 ・課題を解決しながら、継続すべき。 ・若者が町外に出て町内には高齢者しかいない家庭も多い中、家族の協力をもらい不測の事態に備えるように考えて行かなければならない。
		○	12	
		△	0	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
27. 地域包括支援体制の整備	健康福祉課	◎	5	・高齢者対象の事業として、必要不可欠な事業として、24、25、26、27と連携して取り組む。他の市町と比較し、より手厚い場合はそれを町外にもアピールすることも考える。 ・宝達高校生との連携はあるのか。 ・課題を解決しながら、継続すべき。 ・見守りネットワークを構築し、地域で助け合えるような集落形成、町のサポートを充実させて行かなければならない。
		○	9	
		△	1	
		×	0	
28. 健康増進事業(がん検診)	健康づくり推進室	◎	2	・健康作りの観点から、28、29、30と連携して取り組む。他の市町と比較し、より手厚い場合はそれを町外にもアピールする事を考える。 ・40－64歳は職場などでの健診があるので少ない。 ・受診率を上げるために、さらに工夫して実施すべき。 ・啓発活動が重要でがんは身近にある事を意識するためのチラシやがんの怖さを知らせる内容などを考えるチラシを作成し、ひとりでも多くの人を受診してもらえるように考える。
		○	12	
		△	1	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
29. 健康増進事業(特定健診・保健指導)	健康づくり推進室	◎	3	・健康作りの観点から、28、29、30と連携して取り組む。他の市町と比較し、より手厚い場合はそれを町外にもアピールする事を考える。 ・町主催の医療健康セミナーを開催して、健診への関心を高める。 ・特定健診受診率の向上のために、何かインセンティブか工夫をして継続すべき。 ・認知度が低く、特定健康診査や特定保健指導の対象者かどうか分からない部分があるので、啓発活動は勿論、対象者リストを作成し個別に連絡する事が必要。
		○	10	
		△	2	
		×	0	
30. 地域組織育成事業	健康づくり推進室	◎	1	・健康作りの観点から、28、29、30と連携して取り組む。他の市町と比較し、より手厚い場合はそれを町外にもアピールする事を考える。 ・町内活動との連携はどうなっているのか。 ・継続すべきだが、どれだけ効果があったか不透明。 ・食生活改善や健康の観点から各家庭が気をつけるように小学校・中学校まで食育活動を広げていき、また、会員同士で情報共有を行い改善点があれば今後の活動を議論していけばどうか。
		○	14	
		△	0	
		×	0	

事業	担当課	評 価		意 見
31. 地域交通政策推進事業	企画情報課	◎	3	・今後、自家用車が使えない高齢者が増えることが想定されることより、交通手段は必要不可欠なことから、オンデマンド化も含めて検討する。 ・デマンドタクシーの重要性が増している。「生活の足」の確保は高齢化社会のポイント。 ・コミュニティバスの利便性を向上させながら継続すべき。 ・かほく市への移動が多いことや買い物利用へのニーズが高いことなどを考慮すると、町以南への公共交通網を展開することも検討してみてもはどうだろうか。 ・利用者の多くの高齢者のニーズに合わせて停留所の改善や利便性を高める事などの内容を充実して行ってほしい。
		○	9	
		△	3	
		×	0	
32. 地域行事サポート事業	総務課	◎	2	・集落の高齢化が進むことから、どの程度行政の支援が必要かを考慮して進める。 ・集落の除雪でコミュニティのあり方が問われる。モデル地区の設定はとても参考になる。 ・さらに深化させて、北志雄地区だけでなく他の地域関連携も検討すべき。 ・除雪が中心のようであり、やや物足りない感あり。第1期からずっと北志雄地域がモデル地区としてなっているが、その活動成果を広くアピールできないか。 ・モデル地区での内容を精査し、他の地区でも連携協力ができるように活動していく事が重要。
		○	11	
		△	2	
		×	0	

事業	担当課	評 価	意 見
その他			・空き家バンクに関連 立地条件によって、店舗兼住宅として活用できれば、創業・起業支援と併せて定住促進を図れないか。 企画情報・商工観光・地域整備課の連携による利活用可能な空き家マップを作成し事業者を呼び込む。 ・事業1、7、12といった町有地、町有財産の活用が、十分に上手くなされていないように見受けられます。 地域の様々な事情等もあり、複雑な要因もあるかと思われませんが、不動産の活用及び地域にもたらず効果を併せて考えた場合、総合的な不動産開発事業としての面をとらえて、民間の開発事業者の手法を参考としつつ、再度、大幅な内容の見直しが必要であると考えます。 能登半島地震の影響から地域の人口減少がさらに進行するなか、取りうる選択肢も次第に限られていくため、早急な対策が必要と考えます。 ・評価シートより、宝達志水町がどのような事業を行っているのかがわかりました。 事業全体で感じたのが、子どもから大人、高齢者に至るまで幅広い世代に対して、それぞれの年代を対象にした取組が行われていることです。 宝達志水町が「街の幸福度自治体ランキング」で石川県1位になったことより、住民が町の行っている事業を評価していることだと思います。住民が満足して住んでいる町であるということ、町外にもっとアピールしていく事は必要なのではないかと思います。 また、住民が町外に転出しないような取組だけでなく、町外からも宝達志水町に住みたいと思えるような取組になるといいと思います。 そのために宝達志水町ならではの特徴を出すような施策等があってもいいように思います。例えば、石川県では宝達志水町でしか学べないこと、できないことを作ったり、見つけたりする必要があるように思います。 ・様々な取組みをされていますが、限られた職員数ですべて行うことは非常に大変だと感じます。各施策に実効性を持たせるのであれば、周辺の市町の取組と比較・連携する目線で、取組を絞ることも一つの方法ではないかと感じました。（項目が多いなと印象を受けました） 宝達志水町の特徴を出すことも考えていければいいと感じます。例えば「健康」をキーワードに老若男女が集える施策を複数行うなど。 ・震災などの災害、ため池の決壊など、リスク管理が必要です。住民レベルでの一次的な避難のあり方など総合戦略に盛り込んではいかがでしょうか。

事業	担当課	評 価	意 見
その他			・重要業績指標(KPI)が、正しく効果を上げているのか不透明なものがある。中身を検討すべきではないか。 ・ほとんどの事業は実績指標が1つしか設定されていないが、事業目的を達成しているか評価する指標が1つというのは少なすぎると思う。 中には達成度が0%のまま何年も推移している事業も見受けられるが、指標に掲げている取り組み以外にも実施している取り組みがあるなら業績指標として追加することで達成評価も変わるのではないのでしょうか。 ・官民一体で連携して行かなければ、魅力あって住みやすい持続的な町には決してなりえません。 魅力がある町を作らないと若者は残ったり来たりしません。また街並みを変えすぎると高齢者がさみしい思いをします。 若者から高齢者までが住みやすく住んでみたいと思えるような町を一緒に考え作って行こうと思います。